

令和3年度地域座談会（中丸自治会） 結果報告

日 時 令和3年11月20日（土）10時～

場 所 中丸地域集会施設

参加者数 12名

町出席者 本山町長、政策推進課長、鍵和田課長補佐、杉崎

1 自治会長あいさつ

- ・選挙公約などを中心にご意見・ご要望について意見交換をしていただく。

2 町長あいさつ・職員紹介

- ・公約に関するご質問等には、しっかりとお答えさせていただく。
- ・きらきらフェスタがスタートする。運動がてら歩いてきていただき、癒されてほしい。
- ・町民の皆さまが日頃から対策をしていただいていることで、コロナ感染者はここ最近では、0人を維持している。
- ・3回目のワクチン接種の準備も進めている。原則、2回目の接種から8か月間を基本に準備していく。皆さまは、1月下旬頃から2月上旬頃の接種になる予定。
- ・子育て世帯への10万円の給付については、今年中に現金で5万円、令和4年の春頃にクーポン券で5万円として執行する予定。
- ・コロナ前は、座談会を15か所で実施していた。座談会は、協働のまちづくりとして位置付けている。各種事業等を前に進めるためにいろいろな議論をしましょう。

(政策推進課)

- ・令和4年度は第6次総合計画後期アクションプログラムの策定を行う。
- ・現在、新たな交通サービスの研究などを行っており、12月以降に皆さまにアンケートをお願いする可能性があるため、その際にご協力をお願いしたい。

3 意見交換

○質問

- ・駅前整備について、スーパーや自由通路、歩車分離の整理の最低3点を実施していただければいいと思う。12年かかると言われているが、町長の任期はあと4年のため、駅前整備はどうなるのか。

●町長

- ・町民の皆さまからの要望等については、極力盛り込んでいきたいと考えている。
- ・まちづくりをするために駅前整備を実施する。「魅力のある駅周辺」にしたい。
- ・地権者の皆さまからは、「12年もかかるのは遅い」という意見もある。しかし、

合意形成に時間がかかっており、8年がかかった。

- ・町にとって大事業は、必ず総合計画に位置付けている。議会が議決をするという事は、「必ず実行する」と承知したうえでの計画。町長が変わってもやらない町の方針である。
- ・まだまだハードルは多いが、緊張感を持って進める。新松田駅周辺整備事業に伴う準備組合が設立されればスムーズに進むと思う。

○質問

- ・高齢者の福祉事業について、具体的な町長の考えは。

●町長

- ・町の人口は、10,617人、高齢化率は34.8%（11月時点）
また、この先65歳以上の高齢者人口は減っていく見込みだが、子供の人口が減っているため、高齢化率は高くなる。
- ・比較的元気な方が多いが、普段お顔を拝見できる方以外の方々（さまざまな事業などに参加していない方など）はどうしているかを把握することがセーフティネットである。
- ・行政として、デジタル化の中で独居の方への支援や把握をすることや、健康状態の把握、買い物・移動への支援が必要。
- ・移動販売車については、お店から半径300m以内は販売しないこととなっており、近い方々で困っているという声も出てきている。このような方々に対し、1,000万円ほど負担しながらタクシー券での支援を行っている。

○質問

- ・福祉といっても、組織やグループが多すぎる。（民生委員など）
- ・町として、様々な組織などを統括する1本の柱を作る必要があると思う。
- ・高齢者が町のどの部署に相談したらよいかわからない。PRが足りないのではないか。

●町長

- ・地域包括ケアシステムでコントロールタワーを担っており、ケアが必要な方々との意見交換などは行っているが、我々のPR不足で申し訳ない。
- ・対象者への対応はできているが、対象者でない方はどこに連絡したらよいかわからないといった状況になっている。
- ・「この心配事は、ここに連絡してください」といったことで完結できるよう、わかりやすくしたいと思う。

○質問

- ・行政の窓口にとどり着けないという案件があるため、受入れ体制を考えていただきたい。

○質問

- ・福祉政策で内容が不十分なものがある。町民が必要なニーズを伝えにくく、町としても、声なき声を吸い上げるシステムが欠如している。
- ・身体障害者福祉会で懇談会を行ったが、様々な助成制度を知らないという状況であった。また、制度利用のハードルが高い、手続きが煩雑などといった意見もあった。(例：年齢制限によりタクシー券が利用できなかった。)
- ・高齢化、障がい児者にスポットを当てた、メリハリのある政策の立案をお願いしたい。
- ・再任用職員を活用して、きめ細かな福祉施策に取り組んでいただきたい。

○質問

- ・個々の問題ではなく、5年先を見据えて総合的に考えていただきたい。

○質問

- ・期日前投票の際、車イスを利用している主人は、介護タクシーの助成対象にならなかった。選挙に行きたくても行けない人がたくさんいたと思う。

○質問

- ・大学生の子供がおり、リモート授業が増えている。Wi-Fi 環境の通信費などへの補助を考えていただきたい。

●町長

- ・選挙に行きたくても行けない人がたくさんいるということは感じている。そのような方々が、どこにどのような形にいるのかを、行政と民生委員で連携を取り、投票という権利を行使するためのサポートが必要。

○質問

- ・コロナワクチン接種の際にも、タクシー券を配布していたため、条件は同じなのではないか。

●町長

- ・コロナについては、生死にかかわることであるため、町としても助成しやすかった。
- ・選挙については、意思を表現するための大切な場であることから、どのような理由で行うかなどよく考えさせていただく。
- ・リモート授業・勤務については、コロナ対策の一部として、端末代に対し、上限3万円を補助させていただいたが、通信費は払い続けることとなる。10万円の給付については18歳以下であるが、大学生にもお金はかかるため、持論としては、子育て世帯に手厚くして、子供を産み育てやすい環境を作るべきと考える。対象を絞った上での支援など、町なりにできることを研究させていただく。

○質問

- ・土石流への対応について、昭和12年にかなん沢で起こった土石流のような甚大な被害が起きないように、盛土への対応などをお願いしたい。

●町長

- ・近年、山の保全が十分にできていない状況であり、有害鳥獣被害や農道が使えなくなるなど様々なところに影響が出ている。
- ・対策について、町単独ではできないところは、県に要望しながら管理をしている状況。
- ・天野松田山わくわくランドについては、熱海で発生した土石流などの災害のすぐ後に、再度確認していただいた。今のところ、早々に熱海のような被害がでることはないかと報告をいただいている。
- ・町として地域の方々と一緒に管理していく必要があると考える。

○質問

- ・絶えず気を付けていただきたい。

○質問

- ・鳥獣被害について、どの程度生息しているかなど調査はできているのか。

●町長

- ・チェックメイトまでの間の河内農道でクマがわなにかかった。射殺することができないため、麻酔で眠らせて丹沢山の奥深くに放したと聞いている。その後、寄に小熊が出たが、自然にいなくなった。専門家の話では、どこかに住んでいるのではないかとのことなので、注視している。
- ・サルについては、町屋や松田小学校、城光沢に出没したのち、茶屋にも出没した。その後、目撃情報はない。
- ・山に食べ物がなくなっており、里地に出てきている。10年20年先を見据えて、山の整備をしながら、人と獣との線を引きたい。

○質問

- ・わくわく買い物券の使い勝手が悪い。昼食は1,000円以下の場合が多いため、使えない時がある。500円券があれば使いやすい。

●町長

- ・500円券があったときには、生活者支援（食料を購入するためなど）として実施していた。今回の1,000円券については、お店の消費喚起を目的にシフトしている。1,000円券か500円券のどちらでも使えるような選択的な方法など工夫する。

○質問

- ・空き家対策はどのような状況か。

●町長

- ・人口減少を考えると、子供を預ける場所や住む場所が大切。

- ・空き家を利活用（お試し住宅的な活用）していただき、移住への入り口として大切であるとする。
- ・空き家バンクを設立し、登録数は増えてきている。今年、改めて協議会で進めている。空き家の情報があれば情報をいただき、町を中心にマッチングをする。

●政策推進課長

- ・松田地区、寄地区において、1軒1軒実態調査をしたが、改めてもう一度調査をさせていただく。所有者の意向調査のためのアンケート調査をさせていただき、今後の空き家対策に有効に活用していきたいと考えているため、その際にご協力をお願いしたい。

○質問

- ・住宅相談員の募集はどうなったのか。

●政策推進課長

- ・これからでも応募できる。

○質問

- ・相談員となって、松田町の人口が増えればという考えを持っている。

●政策推進課長

- ・担当に伝える。

○質問

- ・企業誘致や雇用の創出について、町としての考えはあるか。

●町長

- ・現状、松田町の中では小田原エンジニアリングがある一画のみ、工場を建てられるエリアとなっているため、一定以上の発電機を使用する工場を誘致する場所がない状況。
- ・企業誘致することで雇用が創出されるとともに、法人税も入るため、神山の一画を準工業地域にすべく県と調整している。早くて3年後になる。
- ・内需の拡大として、行政から民間の方々へ広がっていければと考えている。

○質問

- ・5年先の福祉施策の計画について、異業種や若い方を組織に入れて、違う観点からの意見をいただきながら検討していただきたい。

●町長

- ・高齢者福祉計画策定時のメンバーについて、募集することはできると思うが、なかなか若い方は仕事で忙しい。そのような点も加味しながら、一緒になって作っていく計画にしていきたい。

○質問

- ・いろいろな団体で、後継者不足が問題となっており、高齢者が高齢者を支える

ような状況になっている。

●町長

- ・PTA や子供会の繋がりでのグループがあったが、親同士の交流が少なくなっていることは感じている。子供を思う人々の団体を作って、後々につながるような形にするよう努力する。

○質問

- ・なぜ富士山を活用しないのか。
- ・電柱を無くしてラウンジを作り、登山客を留め置くことができる商業施設を作ってほしい。
- ・商業施設を置くことはできるが、長い年月運営すると撤退することも考えられる。(例：小田原のシティモールではフードコートが撤退した)
- ・税金を使って施設を作り、長い年月運営できるような仕組みを検討してほしい。

●町長

- ・富士山は魅力的であるため、可能な限り富士山が見えるような開発をしていきたい。
- ・二つの駅があることは強みであり、飲食店が入ることは企業誘致の一つであるとする。総合計画でも定めているため必ず進める。
- ・持続可能な商業施設を作る必要がある。また、その商業施設をだれが作るのかという意見があるが、9割を民間が建てて、その誘致を町が行う計画となっている。
- ・駅広場の整備、自由通路、歩道橋の整備を行うために約15億円かかる。このために、毎年3,000万円を貯金し、将来に負担を残さないように努力をしている。(例：大雄山駅のビルは市で行った)
- ・今後は、西平畑公園も民間に任せたいと思っている。
- ・官民連携で進めることにより、住民サービスは向上すると考える。

4 閉会（自治会長）

- ・ぜひ、これからの4年間、トレンドを踏まえたまちづくりをお願いしたい。
- ・声なき声を吸い上げる仕組みづくりと現在ある方法の拡充をお願いしたい。

以上